

第4回広陵町総合計画審議会部会

■ 開催日時

令和3年12月24日（金） 13時00分から14時00分まで

■ 開催場所

広陵町役場 3階 大会議室

■ 出席者

＜委員＞

清水部会長、松村副部会長、松井委員、新谷委員、中村委員、山本委員、岩脇委員

＜事務局＞

奥田企画部長、芝企画政策課長、植村企画政策課係長、芦原企画政策課担当

■ 次第

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 議案
 - (1) 第5次広陵町総合計画（重点プロジェクト（基本目標1から3素案・修正案）
（資料1・参考資料1）
 - (2) 第2次広陵町人口ビジョンの将来人口推計について
（資料2・参考資料2）（報告）
- 4 その他
- 5 閉会

＜配布資料＞

- 【次第】 第4回広陵町総合計画審議会部会
- 【資料1】 第5次広陵町総合計画（重点プロジェクト（基本目標1から3）素案・修正案）
- 【資料2】 第2次広陵町人口ビジョンについて（参考資料2の概要）
- 【参考資料1】 重点プロジェクト（基本目標1から3）の新旧対照表
- 【参考資料2】 第2次広陵町人口ビジョン（素案）

■ 議事内容

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 議案

(1) 第5次広陵町総合計画（重点プロジェクト（基本目標1から3素案・修正案）
（資料1・参考資料1）

（「第5次広陵町総合計画（重点プロジェクト（基本目標1から3）素案・修正案）」
（資料1及び参考資料1に基づき事務局から説明）

委員

- ・【基本目標Ⅱ】地域が活性化するまち（2）タウンプロモーションコンテンツの整備・拡充に記載の「重要業績評価指標：集客事業実施を希望する個人及び団体への拠点提供回数」及び【基本目標Ⅲ】生活基盤が充実したまち・誰もが安全・安心して暮らせる充実したまち（2）犯罪抑止環境の強化に記載の「重要業績評価指標：特殊詐欺等に関する啓発活動の件数」について、単位を修正する必要がある。

事務局

- ・修正する。

委員

- ・【基本目標Ⅰ】次世代を担う子どもが輝けるまち（1）妊娠～出産～子育てまでの支援に記載されている具体的な取組「子ども家庭総合支援拠点の設置」について、「子育て世代包括支援センター」との違いについて、具体的にどういふことをするところで、どんなイメージのものなのかなど、注釈があっても良いと考える。

委員

- ・具体的な取組の記載方法について、ほとんどが体言止めで記載されているが、体言止めとなっていない取組が複数あるため、体言止めで統一してはどうか。
- ・【基本目標Ⅲ】生活基盤が充実したまち・誰もが安全・安心して暮らせる充実したまちに「交通弱者」と記載されている。近隣ではデマンド交通の運行がされているが、広陵町としては今後どのように公共交通の施策を展開するのかを教えてほしい。

事務局

- ・広陵元気号は、従前デマンド方式での運行を行っており、さまざまな意見等を加味し、現在は定時定路線での運行方式を採用している。
- ・交通施策については、広陵町地域公共交通活性化協議会という組織において検討しており、現在、当町にあった公共交通のあり方について検討するため、公共交通計画を策定しているところである。こちらの検討に当たっては、社会情勢等の変化も鑑み、デマンド交通についても検討しているところである。

(資料2「第2次広陵町人口ビジョンの改正内容について」事務局から説明)

委員

- ・2060年に生産年齢人口が50%、高齢人口は約4割近くになると試算されており、今後、福祉や教育費によりお金が必要となってくることを考えると、経済が疲弊するのではないかと危惧している。やはり、町としては生産年齢人口の確保（特に子育て世帯）が必要である。
- ・奈良県の共働き率は、全国的に見ても低位に位置し、広陵町では35歳から39歳ぐらいの女性の働いている割合は、低いと理解している。それらの女性がもっと働きやすくなると、経済も少し潤うのではないかと考える。
- ・併せて、未就学児のいる家庭では、子どもが発熱等により、両親のどちらかが対応することとなり、共働きができない要因の一つとなっている。今後、高齢者も増えることを考えると、地域や身近に住む高齢者の方がその面倒を見るなど、地域で子育てできる環境をつくることができればよいのではないかと考える。

事務局

- ・子育てに関してはあらゆる人達がサポートしあえるよう環境をつくり上げていく必要があると考える。第一に、行政からの情報をしっかりと発信していくとともに、今回策定の重点プロジェクトを組織横断的に実行していきたいと考える。

委員

- ・広陵町の現状として、特別区域(特区)という形で住宅開発が進み、子育て世代の方々が転入され、人口が増えてきたと認識している。今後、特別区域(特区)の見直しがあると聞いており、その場合、何の策も講じなければ今までと同じように人口増や人口維持また、将来展望人口につなげることは難しいと考える。
- ・国では農業に関して、半農半Xを推進する動きがでてきている。半農半Xは、新たに新住民が農業をしながら別に自分達の職業を持つ、というものであり、広陵町も推進していければと考える。

部会長

- ・将来人口推計の手法について、「パターン1」や「シミュレーション1」など、住民目線で見るとわかりにくいため、住民の目に触れる場面では、それぞれの推計方法の名称をもう少しわかりやすい表現に変えてはどうかと考える。

委員

- ・他自治体の人口ビジョンを見る機会があり、広陵町の合計特殊出生率2.1の目標は非常に積極的な数字であると感じた。現状の合計特殊出生率1.45でも他の自治体からすると羨ましいような数値だと考える。
- ・しかし、実際のところ、日本の全体の合計特殊出生率が伸び悩んでいる状況で、1自治体の施策で解決できる問題でもないと考え。しかし、理想は高く持つことは良い。

事務局

- ・今回設定した合計特殊出生率 2.10 は、事務局内部でも議論があり、国の人口ビジョンにおいても合計特殊出生率は 2.10 で推計していることや重点プロジェクトの施策を推進していくことでこの設定値に持っていけるように頑張っていこう、という前向きな考えから、前回と同様、2.10 を設定した。

部会長

- ・あくまでも目標値ということで、高く設定しても良いと考える。

以上